



2022年12月16日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 R e b a s e
代 表 者 名 代 表 取 締 役 CEO 佐 藤 海
(コード番号：5138 東証グロス市場)
問 合 せ 先 取 締 役 大 辻 琢 磨
(TEL 03-6271-4660)

東京証券取引所グロス市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2022年12月16日に東京証券取引所グロス市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当社の2023年3月期（2022年4月1日から2023年3月31日）における業績予想は以下のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【個別】

(単位：百万円、%)

項 目	決算期	2023年3月期 (予想)		2023年3月期 第2四半期累計期間 (実績)		2022年3月期 (実績)		
		対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率		対売上 高比率	
売 上 高		1,083	100.0	21.7	516	100.0	890	100.0
営 業 利 益		213	19.7	0.9	114	22.1	211	23.8
経 常 利 益		207	19.2	△1.5	113	22.0	211	23.7
当 期 (四 半 期) 純 利 益		130	12.0	△6.6	73	14.3	139	15.7
1株当たり当期 (四半期)純利益		30円27銭		17円98銭		34円94銭		
1株当たり配当金		0円00銭		0円00銭		0円00銭		

- (注) 1. 当社は、連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成しておりません。
2. 2022年3月期(実績)及び2023年3月期第2四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。
3. 2023年3月期(予想)の1株当たり当期(四半期)純利益は、公募株式数(200,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。
4. 2022年8月31日付で、普通株式1株につき10株の株式分割を行っておりますが、2022年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益を算出しております。

【2023年3月期業績予想の前提条件】

1. 当社全体の見通し

当社は「一人ひとりの『らしさ』であふれる世界」というビジョンを掲げ、『『できる』をあたりまえに』をミッションとし、多様性の尊重が社会的に重要なテーマとして注目される昨今、一人ひとりの無限の可能性を実現する機会やきっかけを提供し、豊かなライフスタイルで溢れる世界の実現を目指してサービスを展開しております。

主要サービスの「インスタベース」では、レンタルスペースの利用シーンに合わせて、会議室やテレワークスペース、古民家や撮影スタジオ、ダンススタジオなど多種多様なニーズに対応するスペースを提供しております。遊休スペースを抱えて困っている人、目的に応じて最適な場所を探すことに困っている人、その双方が抱える課題を最適にマッチングすることによって解決するサービスが「インスタベース」です。

市場環境としては、新型コロナウイルスの感染者数が抑制され、活動制限の緩和により消費活動が徐々に正常化に向かう一方、急激な円安による為替相場の変動やロシア・ウクライナ情勢に起因する資源価格の高騰など、景気の先行きは不透明感を増している状況にあります。

このような環境の中でも、宿泊業や飲食業、娯楽業などの需要に回復の兆しが見えるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響をきっかけに生まれた新しい生活様式、リモートワークを前提とした新しい働き方への変化は定着しつつあり、多様な空きスペースをワークスペースとして柔軟に利活用する需要は堅調に推移しました。

「インスタベース」においては、前述のテレワークやリモートワークのみならず、各種イベント・パーティー・撮影等、幅広い用途で多様な空きスペースを利活用する需要が見られました。

また、旅行業取得により可能となった宿泊施設(旅館業)のダイユースとしての掲載、利用者向けキャンペーン企画の展開、各種IoTサービスとの連携、デザインや用途・周辺スポットなどのテーマからおすすめページを紹介する機能のリリースなど、利用者ニーズの変化に対応したスペースの獲得や施策の実施、掲載者の安全かつスムーズな運営管理の実現、UI/UXの改善などを継続的に行ない、利便性向上および集客力向上を図ってまいりました。

その結果、2023年3月期の業績は、売上高1,083百万円（前期比21.7%増）、営業利益213百万円（前期比0.9%増）、経常利益207百万円（前期比1.5%減）、当期純利益130百万円（前期比6.6%減）を見込んでおります。なお、2022年4月から2022年8月の実績を踏まえ2022年9月に予算の見直しを実施しており、本業績予想は2022年9月に策定した修正後計画の数値であります。修正後計画の数値は、2022年4月から2022年8月の実績に2022年9月以降の見通しを加えて算定しております。

2. 個別の見通し

(1) 売上高

当社の売上高は、レンタルスペースの予約プラットフォームである「インスタベース」の売上高が99.1%（2022年3月期実績）を占めております。このサービスの売上高は、スペース掲載者からいただくスペース利用料に対する手数料収益であるため、実利用総額（※1）を増加させることが売上高拡大に直結いたします。

当社では、スペース利用者がレンタルスペースを利用した日を収益認識基準としており、「インスタベース」においてスペース利用者がスペースを利用したスペース利用料の総額(税抜)を実利用総額として認識し、実利用総額のうちスペース掲載者からいただく成約手数料に該当する金額を売上高として計上しております。

業績予想策定においては、各月の実利用総額（※2）に予約単価をかけ合わせて実利用総額を算出し、実利用総額に手数料率をかけ合わせて売上高を算出しております。

実利用数は、セッション数（※3）及びCVR（※4）をかけ合わせた数値に承認率（※5）と実利用率（※6）をかけて算出しております。

セッション数は、2022年4月から2022年8月における前年同月比、前月比、実績値を総合的に勘案して算出しており、CVRについては短期間での変動傾向がないため、2022年4月から2022年8月の実績をベースに設定しております。

予約単価については、シーズナリティを除くと短期間での変動傾向がないため、2022年4月から2022年8月の実績をベースに設定しております。なお、12月についてはこれまでの傾向を加味して通常月より約1.2倍の単価を設定しております。

また、四半期偏重・季節変動の傾向としては、予約単価の高い利用（主には11月のハロウィン、12月のクリスマス・忘年会などの年末にかけた季節イベントや大人数利用など）の需要が高まる第3四半期（10～12月）において、セッション数および予約単価が20%程度増加する傾向にある一方で、新規利用者が増加するためCVRが20%程度減少する傾向にあります。しかしながら、2023年3月期におきましては、依然として新型コロナウイルス感染症の影響により業績推移が不透明であるため、2022年9月以降のセッション数について2022年4月から2022年8月までの前年比をベースに算出し、その他指標については2022年4月から2022年8月までの実績をベースに設定しております。

以上の結果、2023年3月期における実利用総額は3,443百万円（前期比23.9%増）と予測し、売上高は1,083百万円（前期比21.7%増）を見込んでおります。

（※1）実利用総額・・・「インスタベース」においてスペース利用者がスペースを利用したスペース利用料の総額(税抜)

（※2）実利用数・・・「インスタベース」においてスペース利用者がスペースを利用した件数

（※3）セッション数・・・インスタベースにアクセスしたユーザーの訪問回数の年間合計値

（※4）CVR・・・セッション数に対する予約総数（※7）の比率

（※5）承認率・・・予約手続きが完了した予約のうち、スペース掲載者によって承認された予約の比率

（※6）実利用率・・・スペース掲載者によって承認された予約のうち、実際にスペースが利用された比率

（※7）予約総数・・・「インスタベース」において、スペース利用者がスペースを予約した件数

(2) 売上原価、売上総利益

売上原価は、主に新規事業開発に係る費用及びマッチングプラットフォーム事業に係るソフトウェア資産の減価償却費（システム原価）で構成されております。

これらについて、2022年4月から2022年8月の実績をもとに積み上げによる見込額を合算しておりますが、システム原価については、開発の件数費および開発の業務委託費のうち、過去実績から一定比率が新規のソフトウェア資産となると見積もり、償却期間60ヶ月で割り戻した金額の累計額として算出しております。

その結果、売上原価は25百万円（前期比37.4%増）、売上総利益は1,058百万円（前期比21.4%増）を見込んでおります。

(3) 販売費及び一般管理費、営業利益

当社の販売費及び一般管理費は、主に広告宣伝費、人件費等で構成されております。

広告宣伝費に関しては、2022年4月から2022年8月の実績をもとに、新規会員獲得に向けたリスティング広告および認知広告の強化に伴うWeb広告配信費用の増加等により、広告宣伝費は146百万円（前期比38.1%増）を見込んでおります。人件費に関しては、2023年3月期の人員計画としてビジネスグループ4名、コーポレートグループ2名、プロダクトグループ1名の計7名の増員を予定しておりますが、2022年3月期においては決算賞与の支給があったため、2023年3月期の人件費は161百万円（前期比15.0%減）を見込んでおります。

その他費用に関しては、2022年4月から2022年8月の実績をもとに、2022年9月以降の各費用の積み上げにより算出しており、主な内容としては、支払手数料161百万円（前期比28.9%増）、業務委託費88百万円（前期比85.2%増）、役員報酬66百万円（前期比39.7%増）などを見込んでおります。その結果、販売費及び一般管理費は844百万円（前期比28.0%増）、営業利益は213百万円（前期比0.9%増）を見込んでおります。

(4) 営業外損益、経常利益

営業外費用について2022年4月から2022年8月の実績に上場関連費用の計上を見込んだ結果5百万円となり、経常利益は207百万円（前期比1.5%減）を見込んでおります。

(5) 特別損益、当期純利益

現状、特別損益の発生は見込んでおりません。

なお、法人税等を考慮した結果、当期純利益は130百万円（前期比6.6%減）を見込んでおりますが、繰延税金資産の計上により利益額が増額する可能性がございます。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料の日付時点において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合がございます。

以上



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年12月16日

上場会社名 株式会社Rebase 上場取引所 東
コード番号 5138 URL <https://www.rebase.co.jp>
代表者 (役職名)代表取締役CEO (氏名)佐藤 海
問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)大辻 琢磨 (TEL)03(6271)4660
四半期報告書提出予定日 — 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	516	—	114	—	113	—	73	—
2022年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2023年3月期第2四半期	17	98	—	—
2022年3月期第2四半期	—	—	—	—

- (注) 1 当社は2022年3月期第2四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2022年3月期第2四半期の数値及び2023年3月期第2四半期の前年同四半期増減率については記載していません。
2 当社は2022年8月31日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	701	—	486	—	69.4	—
2022年3月期	796	—	413	—	51.9	—

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 486百万円 2022年3月期 413百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	1,083	21.7	213	0.9	207	△1.5	130	△6.6	30	27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	4,400,000株	2022年3月期	4,000,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	一株	2022年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	4,109,289株	2022年3月期2Q	一株

- (注) 1 当社は2022年3月期第2四半期については四半期財務諸表を作成していませんため、期中平均株式数を記載していません。
- 2 当社は2022年8月31日を効力発生日として普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数、期中平均株式数を記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に対する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。なお、当社は前第2四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析は行っていません。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(2022年4月1日～2022年9月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種の浸透と行動制限の緩和により、個人消費に持ち直しの動きが見られましたが、長期化するロシア・ウクライナ情勢、米国金利上昇による日米金利差拡大に伴う為替相場の急激な円安の進行、原材料価格やエネルギー価格等の高騰が続く、景気後退リスクが高まる中、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、対個人サービスや宿泊・飲食サービスでは、経済活動の正常化の進展に加え、「全国旅行支援」による旅行需要の回復の後押しや、水際対策の緩和によるインバウンド回復への期待感から改善の兆しが出ております。新型コロナウイルス感染症の影響がきっかけとなったテレワークは常態化し、ワークスペースとして柔軟かつ多様な空きスペースを利活用する需要は堅調に推移しました。

当社が運営しているレンタルスペースのマッチングプラットフォーム「インスタベース」においては、テレワークやリモートワークのみならずワクチン接種率の高まりや行動制限緩和により各種イベント、パーティー、撮影等、柔軟かつ多様な空きスペースを利活用する需要が見られました。

このような状況下において、「インスタベース」では、新たな宿泊施設(旅館業)や個室型ワークブースの掲載開始、大手不動産会社との連携、利用者向けキャンペーン企画の積極展開、各種IoTサービスとの連携、スペース利用時の飲食プランの提供、スペースの在庫管理機能の導入、決済手段の拡充など、利用者ニーズの変化に対応したスペースの獲得や施策の実施、掲載者の安全かつ効率的な運営管理の実現、UI/UX(※)の改善などを継続的に行ない、利便性向上および集客力向上を図ってまいりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は516,297千円、営業利益は114,109千円、経常利益は113,378千円、四半期純利益は73,868千円となりました。

(※) UI/UXとはUser Interface/User Experienceの略称です。UIとはユーザーとサービスの接点であり、情報をやり取りするための方法、操作、デザインといった仕組みの総称を指し、UXとはユーザーがサービスを通じて得られる体験やそれに伴う感情を指します。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末と比較して94,334千円減少し、701,947千円となりました。これは主に、現金及び預金が93,113千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末と比較して168,202千円減少し、215,000千円となりました。これは主に、納税により未払法人税等が22,771千円減少したこと、返済により短期借入金が12,470千円減少し、長期借入金が75,010千円減少したこと、未払金が62,087千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末と比較して73,868千円増加し、486,947千円となりました。これは、四半期純利益の計上により利益剰余金が73,868千円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末に比べて、93,113千円減少し、460,362千円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動による資金の増加は、36,089千円となりました。これは主として、税引前四半期純利益113,378千円、預り金の増加額26,720千円、未払金の減少額51,922千円及び法人税等の支払額55,172千円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動による資金の減少は、31,726千円となりました。これは、有形固定資産の取得による支出14,530千円及び無形固定資産の取得による支出17,196千円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動による資金の減少は、97,476千円となりました。これは、短期借入金の純減少額12,470千円及び長期借入金の返済による支出85,006千円によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

本日開示いたしました「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

なお、本資料に記載されている業績予想等は、当社が発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	553,476	460,362
売掛金	73,498	67,549
貯蔵品	28	24
その他	14,660	18,959
流動資産合計	641,662	546,896
固定資産		
有形固定資産	58,478	55,810
無形固定資産	30,222	43,623
投資その他の資産	65,918	55,618
固定資産合計	154,619	155,051
資産合計	796,282	701,947
負債の部		
流動負債		
短期借入金	12,470	—
1年内返済予定の長期借入金	9,996	—
未払金	102,066	39,978
未払法人税等	55,172	32,400
預り金	69,797	96,517
その他	58,690	46,103
流動負債合計	308,192	215,000
固定負債		
長期借入金	75,010	—
固定負債合計	75,010	—
負債合計	383,202	215,000
純資産の部		
株主資本		
資本金	82,750	82,750
資本剰余金	82,500	82,500
利益剰余金	247,829	321,697
株主資本合計	413,079	486,947
純資産合計	413,079	486,947
負債純資産合計	796,282	701,947

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	516,297
売上原価	11,505
売上総利益	504,792
販売費及び一般管理費	390,682
営業利益	114,109
営業外収益	
受取利息	2
返金辞退額	2
営業外収益合計	5
営業外費用	
支払利息	19
コミットメントフィー	49
上場関連費用	666
営業外費用合計	736
経常利益	113,378
税引前四半期純利益	113,378
法人税、住民税及び事業税	32,401
法人税等調整額	7,109
法人税等合計	39,510
四半期純利益	73,868

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	113,378
減価償却費	12,667
受取利息及び受取配当金	△2
支払利息	19
売上債権の増減額 (△は増加)	5,948
未払金の増減額 (△は減少)	△51,922
預り金の増減額 (△は減少)	26,720
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△18,560
その他の資産の増減額 (△は増加)	△2,943
その他の負債の増減額 (△は減少)	5,973
小計	91,278
利息及び配当金の受取額	2
利息の支払額	△19
法人税等の支払額	△55,172
営業活動によるキャッシュ・フロー	36,089
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△14,530
無形固定資産の取得による支出	△17,196
投資活動によるキャッシュ・フロー	△31,726
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△12,470
長期借入金の返済による支出	△85,006
財務活動によるキャッシュ・フロー	△97,476
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△93,113
現金及び現金同等物の期首残高	553,476
現金及び現金同等物の四半期末残高	460,362

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前事業年度の新規上場申請のための有価証券報告書（Iの部）の（追加情報）（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り）に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。